

単元名 「I want to go to Italy～甲州市のベストスポットを紹介しよう～」

第5学年 話すこと [発表]

◆本実践の概要

本実践では、ALT が「行ってみたい」と思うような地域紹介をするというパフォーマンス課題に向けて、どのように外国語で表現することができるか、児童が思考することを期待した。課題の解決に向けて、児童が個別最適な学びと協働的な学びを繰り返しながら学習を進めることができる指導方法を検証した。

1 「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標

話すこと[発表]	書くこと
身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。

2 単元の目標

甲州市に来たばかりの ALT に、地域のベストスポットを紹介するために、そこでできることや選んだ理由について、内容を整理した上で、伝えることができる。また、例文を参考に、紹介したい内容を書くことができる。
※「書くこと」については目標に向けて指導は行いが、記録に残す評価は行わない。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと「発表」	<p><知識> 国の名前や、I want to go to ～. You can ～. Where do you want to go? その答え方について理解している。</p> <p><技能> 知識を使って、その場所でできることやしたいことについて、I want to go to ～. You can ～. Where do you want to go? などを用いて、自分の考えや気持ちなどを伝えるために必要な技能を身に付けている。</p>	<p>ALT に地域のベストスポットを紹介するために、そこでできることやそこを選んだ理由などについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝えている。</p>	<p>ALT に地域のベストスポットを紹介するために、そこでできることやそこを選んだ理由などについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝えようとしている。</p>

4 単元について

本単元では、行きたい場所やそこでできることなどを伝えるために、「Where do you want to go?/I want to go to ～.」「 You can～.」などの表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合うことをねらいとしている。本校では、2学期から新しい ALT が転任してきた。そこで、児童が単元の言語材料を用いて、目的意識や相手意識をもって学習に取り組めるよう、本単元のパフォーマンス課題を「ALT の先生に甲州市のベストスポットを紹介しよう」に設定した。

単元の前半では、HRT や ALT による出身国や住んでいる町の紹介を聞き、自分の行きたい場所についてやり取りを行うという言語活動を設定した。第1時には ALT の出身国であるアメリカの紹介、第2時には HRT の住んでいる町の紹介、第3時には ALT の出身州であるフロリダの紹介を題材に「どこに行きたいか」というテーマで言語活動を繰り返していく。これらの言語活動を、題材を変えながら繰り返し行う中で、行きたい場所をどのように伝えるか知識や技能を身に付けていくと同時に、おすすめの場所やそこでできることをどのように紹介するのかという知識や技能も身に付けていく。そして、第3時の学習では、ALT から「次は甲州市のベストスポットを紹介してほしい」とお願いされる場面を設定した。まだ甲州市のことをよく知らない ALT からそのようなお願いされることにより、今まで自分の国や町について紹介してくれた ALT に対して甲州市のベストスポットを紹介してあげるといった必然性が生まれ、児童も主体的に学習に取り組めるのではないかと考えた。ベストスポットを選ぶ際には、既習の言語材料を活用しながら ALT の好みを質問する場面も設定した。

「お寺や神社が好き」や「フルーツが好き」など、ベストスポットを選ぶにあたっての視点があることにより、紹介する相手のことを意識した言語活動が展開できると考えた。

単元の後半では、今まで自分たちが聞いてきた紹介の仕方や学習者用デジタル教科書の音声教材を手がかりに、紹介の仕方を考えるという言語活動に取り組む。第4時・第5時で、基本となる話型をもとに学習をすすめてきた児童に対し、本時で「行ってみたいと思える紹介とはどのような紹介か」問うことにより、各児童が思い思いの工夫を取り入れながら自己調整し、より相手を意識した紹介になることを期待している。

5 単元の指導と評価の計画（全8時間）【◆は目標、・は指導に生かす評価、○は記録に残す評価を表す】

ねらい・学習活動(抜粋)		評価規準(評価方法)		
学習者用デジタル教科書を継続的に活用。		・指導に生かす評価 ○記録に残す評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	◆国名やその国でできることの表現に慣れ親しむ。したいことを伝える言い方を知る。			
2	◆HRT の住んでいる町について聞き取り、行きたい場所について理由とともに伝え合うことができる。			
3	◆ALT の住んでいた町(出身)について聞き取り、行きたい場所について理由とともに伝え合うことができる。	・知 (行動観察)		・主 (行動観察・SS分析)
4	◆ベストスポットでできることを伝える言い方を知る。			
5	◆ベストスポットについて、そこでできることを紹介することができる。	・知 (行動観察・JB分析)		
6 本時	◆ベストスポットについて、そこでできることやそこを選んだ理由などについて伝えることができる。		・思 (行動観察・SS・JB分析)	・主 (行動観察・SS分析)
7	◆ベストスポットについて、そこでできることやそこを選んだ理由などについて伝えることができる。【パフォーマンステスト】	○知 (行動観察・JB分析)	○思 (行動観察・SS・JB分析)	○主 (行動観察・SS分析)
8	◆ベストスポットについて、そこでできることやそこを選んだ理由などについて伝えることができる。【パフォーマンステスト】	○知 (行動観察・JB分析)	○思 (行動観察・SS・JB分析)	○主 (行動観察・SS分析)

※スプレッドシート…SS ジャムボード…JB

6 本時の授業（第6時）

(1) 目標

甲州市に来たばかりのALTに、地域のベストスポットを紹介するために、そこでできることや選んだ理由について、内容を整理した上で、伝えることができる。

(2) 展開例

過程	主な学習活動と児童の反応	評価と配慮事項
5分	○Greeting ○Review ・前時までの学習感想の中からいくつか取り上げ、本時の学習の見通しをもつ。 ・ALTの先生に「行ってみたい」と思ってもらえるような紹介をしたい。 ・次は色々と工夫をして、ALTの先生に紹介できるようになりたい。	・意図的に、本時のゴールにつながるような学習感想を紹介する。 ・相手が「行ってみたい」と思えるような紹介とはどのような紹介か考えさせる。
10分	○Activity I 協働的な学び ・自分の紹介に参考になりそうなところを考えながら、HRTやALTのデモを見る。	・デモを行う際には、児童に気づかせたい表現の部分を強調して紹介する。

・HRT や ALT の紹介を見て気付いたことを友達と伝え合い、全体で共有する。

この場面では、
・It's ~.を使っていた。
・質問を取り入れていた。
・強調して伝えているところがあった。
という3つの気づきを取り上げた。

・前時までの自分たちの紹介とどこが違うのか考えながらデモを見るように促す。



〈HRT〉

This is Fruit Park.
Do you like fruit? (Yes, I do.)
That's good.
You can eat seasonal fruit parfait.
Grapes, peaches and strawberries.
I like shine muscat parfait.
It's very delicious.
Do you want to eat fruit parfait? (Yes.)
OK! Let's go to Fruit Park.

〈ALT〉

Do you like the outdoors? (Yes, I do.)
Perfect! This is the beach in Florida.
It's beautiful there.
You can see so many fish, like Nemo and shark.
You can also eat a lot of seafood, like fish, shrimp and crabs.
My favorite seafood is stone crab.
Let's go to the beach in Florida.

・本時の目標を確認する。

【Today's Goal】

ALT の先生が「行ってみたい」と思うような紹介をしよう。

20分

○Activity2 個別最適な学び

・ALT が「行ってみたい」と思うような紹介をするために、各自で学習方法を選択して言語活動に取り組む。

Aコース(自分で)

- ・ジャムボードにメモをする。
- ・デジタル教科書を使って参考にする
- ・動画をとって改善点を探す。

Bコース(友達と)

- ・お互いに紹介し合って、参考にしたり、アドバイスをしたりする。

Cコース(先生たちと)

- ・先生たちの紹介を見て参考にする。
- ・わからないことを質問する。

・どの児童も学習方法が選択できるよう、3つのコースを提示する。
・どのコースを選んだとしても、紹介をするという言語活動が入るよう確認する。

本時では、ほとんどの児童がまずAコースを選択し、ジャムボードを活用して取り入れたい工夫を書き込んでいた。しかし、中には、Cコースを選択し、もう一度デモが見たいとHRTのもとに訪れる児童もいた。5分ほど経過したところで、Bコースに移行する児童が多かった。

Aコース



Bコース



Cコース



【児童が作成したジャムボードのメモ】		
<p>This is  No.1 Name Sana Atushiba Do you like relax? Yes/No Me to You can  ワイン You can  フラワー I like フラワー Let's go to </p>	<p>This is  No.6 Name Genta Kazuno You can  ホットスプリングス You can  ナイトビュー You can  エンジョイ! レストラン You can  &  ワイン Let's go to </p>	
<p>・[中間指導] 協働的な学び 友達の紹介を聞き、どのような工夫が取り入れられているか考える。</p>	<p>・児童が取り入れた工夫の良さについて考えさせる。</p>	
<p>中間指導では、「I like～を用いて、おすすめを紹介している。」「You can～. を4回使って、できることがたくさんあることを伝えている。」など、教師が想定していた工夫が話題にあがり、そのよさについて考えることができた。 友達の紹介から、「For example」を聞き取り、その意味について児童自らが考える場面もあった。本時の目標が児童一人一人に意識されているからこそ、内容面の深まりが見られた。</p>		
<p>個別最適な学び ・友達とのやり取りや中間指導から、各自が発表を再考し、本時のまとめとして、紹介の様子を動画に記録する。</p>	<p>・思 (行動観察・SS・JB 分析) ・主 (行動観察・SS 分析)</p>	
<p>10分</p>	<p>○Review ・本時のめあてと照らし合わせて、できるようになったこと、できるようになりたいことをスプレッドシートに記入する。</p>	<p>・授業前後で変化が見られた児童を取り上げ、賞賛する。</p>

7 実践を振り返って

本実践においては、個別最適な学びと協働的な学びを繰り返すことで、児童が単元終末の言語活動に向けて、自己調整しながら学習を進めていくことを目指した。英語を使って、自分の思いや考えを話す力を高めるためには、活動に必然性を持たせながら、言語面と内容面について、繰り返し児童が気付く機会を設定することが大切であると感じた。そのために、授業の導入場面や中間指導、指導者や友達とのやり取りなど協働的な学びの時間と、各自が学習方法を選択し、思考する個別最適な学びの時間を、単元や授業の中で、繰り返し設定した。協働的な学びの時間では、自分が表現したい内容と関連付けながら、使われている語句や表現に着目し、その良さを考えることで、自己調整後の姿をイメージすることができた。個別最適な学びの時間では、自分の能力や現状に応じて、自分にとって必要な情報や表現を選択しながら、学習を進めることができたようにした。学習方法を、児童が選択できるようにしたことで、児童一人一人の学習機会を多く持つことができた。また、ジャムボードを活用したことにより、自己調整を行っている過程の自分の思考が可視化され、ALTに「行ってみたい」と思ってもらえるような紹介になっているかどうかを整理する一助となっていた。一方で、外国語は他者とのコミュニケーションの中で見方・考え方を働かせる教科であるため、協働的な学びと個別最適な学びの時間のバランスに配慮すべきであると感じた。また、こうした学習方法を進めるためには、事前の指導も必要である。